

# 第41回 学校社会学研究会

日時：2023年9月23日（土） 24日（日）  
場所：名古屋大学 全学教育棟A館 A14教室

## 研究報告（23日）

13：00～14：30

富江 渚（京都芸術大学）

「宗教教育の現在 — 聖心が芸術環境となる時 — 」

司会者：沖崎 学（金城学院高等学校）

### 報告要旨

本発表は、キリスト教や仏教などの特定の宗教法人の私立中学高校、あるいはそれを母体とする教育機関で教壇に立つ者に、今日的でなおかつ斬新な視点を提示することを、目的とする。具体的には、発表者自身の母校であるカトリックのミッションスクール、小林聖心女子学院中学校・高等学校を取り上げたい。その学校の教育の特色を臨場感を持って解説することを心がけるとともに、現代的意義について述べたい。

- 0)はじめに：なぜ宗教教育か？ 1)私の母校 2)教育の特色 3)未来の母校の展望  
4)錬成会の実際 5)芸術環境としてのクリスマスタブロー 6)まとめ

14：45～16：15

松井 知子（NPO法人「命と性の相談室」、看護師）

「性教育を伝え辛い教育現場 — 子ども達の命と性を守るために — 」

司会者：佐藤 健太（名古屋大学附属高等学校）

### 報告要旨

日本の性教育は時間が不足している。中学校では平均して年間3時間以下で、性についての話題はタブー視されている。包括的な性教育が導入されず、内容も限定的である。この状況では子供たちに必要な命と性の守り方を教えることができない。しかし、教員の中にも性教育の必要性を感じ、はどめをなくした教育を実施したいと考える人も少なくない。ただし、学習指導要領や外部からの圧力、保護者からの反対、教育委員会などからの制約がある。また、学校の経済的理由や、外部講師を呼ぶことを受け入れる体制がない状況も実際に遭遇した。まずは教育者自身が性教育について向き合い、学ぶ必要があるのではないかとこの問題を皆様と考えていきたい。

16:30~18:00

ワークショップ

「中堅以下大学における高大接続の現実 —リメディアル教育の実践例—」

話題提供者: 鷲北 貴史 (湘南工科大学)

#### ワークショップ要旨

大学進学率が大都市圏では6割を超えるなかで、中堅以下の大学では、当然高校までの学習が追い付いてない学生層が入学してくる。

そんな彼らに、「学び直し」をさせることは、恥どころか正義なのである。

報告者の実践の中では「校歌絶唱リメディアル」というものがある。これは賛否両論あるが、中堅以下大学の学生と校歌を歌う取組である。今回はA大学での授業を見ていただく。

また、B大学における小6の問題を使った数的処理の講義やC大学における「厳しい課題を課した結果、上位層しか残らなかった」ジレンマなどを報告する。

一貫してリメディアル教育に取り組んで来た「自負」と「矜持」、そして高大接続教育のリアルを高校教員の皆さまと検討していきたい。

## 研究報告 (24日)

9:30~11:00

児玉 英明 (名古屋大学)

「教養教育と高等学校教科『公共』の接続 —「時事問題で学ぶファシリテーション」の実践—」

司会者: 三小田 博昭 (名古屋大学附属高等学校)

#### 報告要旨

教養教育の学びとは、一義的な正解の存在しない問題について、学際的な視点で物事を考え、多様な見解をもつ他者との対話を通して自身の考えを深めていく学びである。そのような対話的理性を持った熟議民主主義の実践を、教養教育の授業の中にどう組み込むか。

教科名にもなっている「公共」という概念は、日本と西欧では大きく違う。日本では、表向きは「社会」という概念を使いながらも、その現実には「社会」とは似て非なる「世間」という概念が幅を効かしている。その矛盾から「公共」を把握する。本報告では「世間」をカリキュラムから排除するのではなく、「世間」と「社会」を使い分ける矛盾に積極的に着目することが、「主体的・対話的で深い学び」の開口部となることを示す。本報告では名古屋大学で開講している「時事問題で学ぶファシリテーション」を事例にして、そのコンセプトと教材を紹介する。

11:15~12:45

白石 義郎 (久留米大学)

「教材研究：ジブリにおける『もののあわれ』・『闘う少女』」

司会者：中川 美紀 (京都府立大学)

#### 報告要旨

ジブリは、「もののあわれ」と「アニミズム」を底流とする「成長物語の新たな地平を切り開いた。「成長物語」嚆矢となった Buildings Roman は、欧州大陸の一神教のプロテスタンティズムとキャピタリズムの業績主義を底流とする。そのプロセスは「疾風怒濤」であり、その眼差しは「希望」と「未来」に向く。他方、「もののあわれ」は「今」に沈溺する。ジブリはこの二つの異なるものを「行きて帰りし」と「闘う少女」で結合させた。「風の谷のナウシカ」は、「遍歴」と「疾風怒濤」のただ中にある少女であり、同時に「今」を深める闘う少女であった。千尋は「今」に放り込まれ、今」を闘う少女であった。さらに、ジブリは、「もののあわれ」を映像として表現できる文化遺産を利用した。「源氏物語絵巻」は自然の風景の中に「もののあわれ」を表現した。「千と千尋」の「湯屋」のしつらえは過去に存在した文化遺産であった。

12:45~13:00

「来年度『第42回 学校社会学研究会』について」

#### 参加申込

参加を希望する方は、名前・所属を見玉までメールしてください。

[hy.31d.4946@f.thers.ac.jp](mailto:hy.31d.4946@f.thers.ac.jp)

参加費無料